



# トラム&グリーンが最優秀

## 基地跡地利用提案コンペ

返還が予定されている嘉手納飛行場から南の6基地(キャンプ桑江南側地区、陸軍貯油施設第一桑江タンクファーム、キャンプ瑞慶覧、普天間飛行場、牧港補給地区、那覇港湾施設)の跡地利用計画提案コンペの作品発表会と最終審査が2日、宜野湾市の沖繩コンベンションセンターで開催され、最終審査に残った5者の中からトラム&グリーン・リンケージ沖繩21(藤原敏雄代表)が最優秀賞に輝いた。

トラム&グリーン・リンケージ沖繩21は、いずれも東京都に本社がある大成建設(株)、交通コンサルタン

の(株)ライトレル、都市計画コンサルタンの(株)ニライ・カナイ研究所の有志の集まりで、「万国津梁の島(くに)―新しい沖繩の実現」というタイトルで発表。提案内容は6基地を4つの都市エリアに再編し、「都市」、「交通」、「環境」の3つのネットワークを構築して、中南部都市圏の活力と魅力を高め、アジアをリードする沖繩の実現を目指すというもの。那覇港湾施設は「ゲートシティ」として、貴重な都心部の水辺空間を活かした観光交流拠点と、奥武山公園とを連携したアジアのスポーツ交流拠点とした。浦添市の牧港補給地区は同市にある

国立劇場おきなわなど既存の文化施設と連携した統合型エンターテインメントゾーと、MIC E・国際物流拠点とする。普天間は県庁など広域行政の中枢機能を移転・集約して、那覇市への一極集中を改善すると

もに、大規模森林公園や最先端の研究開発拠点を整備して沖繩の先導拠点と位置付けた。キャンプ瑞慶覧、桑江南側、桑江タンクファームは、高台立地と気候風土を活かし、国際色豊かで教育・医療の充実した暮らし創造拠点として整備する。交通の軸は環境に優しいLRTとして各都市拠点を結び、また環境面では、水と緑に満ちたセントラルパークを那覇市の中心部に整備して同市街地を再編するなど自然の生命力や循環のしくみを積極的に取り入れ、亜熱帯庭園都市の創出を目指す。

藤原代表は「沖繩以外に

も基地により街の発展が阻害されているケースがあり、基地跡地利用は日本全体の問題だと思っている。今回のコンペは基地跡地整備を考える一つの手掛かりとなった」と述べた。

最終審査では、そのほか那覇港湾と牧港補給地区に都市型リゾートや先端医療産業拠点、物流・文化・スポーツ産業拠点を置いて「ブルーゲートシティ」、普天間飛行場以北に先端農業や健康産業拠点、商業観光拠点、自然エネルギー生産拠点を盛り込んで「グリーンファームシティ」とする提案など多彩なアイデアが披露された。

コンペは県の本土復帰40周年記念事業の一環で、県内外から79作品の応募があり、第1次審査で20作品に絞られ、20作品の中から、さらに絞られた5作品が最終審査の対象となった。

当日は最終審査のほか、鏡原中学校、普天間中学校、山内中学校、仲西中学校、北谷中学校、北中城中学校の生徒が学校の近くにある基地の跡地利用計画を発表した。

そのほかの受賞者は次の通り(敬称略、カッコ内は提案者)。

【優秀賞】  
▼「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」(日本設計+泉設計)、アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖繩新社会資本戦略的整備(琉球大学都市計画研究室有志)

【佳作】  
▼沖繩が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」を実現する10の提案!(鎌田誠史+山岸豊)、記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街(金城正紀)



提案内容の一部(トラム&グリーン・リンケージ沖繩21提供)



最優秀賞に輝いたトラム&グリーン・リンケージ沖繩21のメンバー